



Assisted Reproductive Technologies in Argentina.

アルゼンチンの生殖補助医療

Interviewee

Dr. Vanesa Rawe

Q. あなたの専門分野とこれまでのキャリアについて教えてください。

生物学者なので、実験室での研究が中心になる。博士論文では、受精の失敗や、不妊症のカップルが受精や胚培養の際に経験する問題などに焦点をあてた。

アルゼンチンのブエノスアイレスにある小さなクリニック、リプロテックの共同設立者として仕事をしている。異性カップル、シングル、ゲイカップルの治療を行っている。クリニックには、男性不妊症の検査と治療、遺伝子検査、Reprobank（精子・卵子バンク）を提供するアンドロロジー研究所がある。アルゼンチン全土や近隣諸国のさまざまなクリニックに卵子や精子を提供している。アルゼンチンのカップルが必要とする診断や治療の多くをカバーしている。クリニックを経営する上で、ラボの運営は中心的な検討事項であり、これは医師の視点とは異なっている。

Q. 不妊治療に対する政府の姿勢は？ 体外受精の治療に政府からの補助金はありますか？

アルゼンチン政府は体外受精に対して非常にオープンな姿勢。具体的な法律はないが、2013年に不妊治療を健康保険で

カバーすることを定めた規則が導入された（一定の基準がある）。

2010年にはアルゼンチンで同性婚が合法化され、LGBT コミュニティが異性愛者と同じ権利を持つことになった。その結果、LGBT コミュニティも保険適用の恩恵を受け、健康保険による治療を受けることができるようになった。

Q. 現在、体外受精クリニックはどのくらいありますか？ 体外受精のサイクル数や成功率に関するデータはありますか？

アルゼンチン全土に約 40 から 45 のクリニックがある。アルゼンチン生殖医学会（SAMER）が各クリニックの統計を集めており、重要な情報源となっている。

Q. 医師はどの国で体外受精のトレーニングを受けているのですか？ 不妊治療を行う医師のキャリアは有望ですか？

アルゼンチンの医師は、研修のためにしばしば海外に渡航する。医師や生物学者のほとんどはアメリカに行く。文化的背景や言語を共有しているスペインとも関係が深い。スペインは ART の治療や方針に関して数年進んでいる傾向があるので、しばしば手本になっている。技術も発達している。両国の間で情報の共有が一般的に行われている。

アルゼンチンは、体外受精と ART 治療に関して、南米地域のパイオニアと言える。治療件数と成功率においても、南米地域で最大の国だ。アルゼンチンで初めて体外受精児が誕生したのは 1983 年で、世界的に初めて体外受精児が誕生してからわずか 5 年後のことだった。バージニア州ノーフォークで生まれた米国初の体



外受精児に関わったアルゼンチン人医師も関わっていた。

Q. クリニック間の競争は激しいですか。クリニックごとに方針に違いはありますか。患者はどのようにしてクリニックを選びますか。

クリニック間には競争意識があるが、それは普通のこと。どのクリニックも患者を集め、質の高い治療を提供したいと考えている。不妊治療が健康保険の対象になったことで、ほとんどのクリニックが健康保険を使った治療を行っているが、患者層は健康保険で治療を受ける人と自費で治療を受ける人の2つに分かれている。

さまざまな学会は、クリニック間で同じレベルの知識を維持するために活動している。主な学会は以下の通り：

- アルゼンチン生殖医学会
- アルゼンチンアンドロロジー学会
- アルゼンチン臨床エンブリオロジスト学会（最近設立された）

アルゼンチンは広大な国土を持つ国だが、ART分野の専門家の数は限られているため、互いをよく知っている。これは共同作業には好都合だし、ラボ運営の面から見れば、もし何か疑問があればすぐに同僚に相談できる。少なくとも生物学者の領域では、非常に親密で、学会やその他のイベントで定期的に顔を合わせる。ほとんどのクリニックは、ブエノスアイレス、コルドバ、ロサリオ、メンドーサの主要4都市に集中している。

患者の大半は健康保険に加入しているため、保険会社の案内に従って、保険が適用されるクリニックを選ぶ。最初に診察を受けた医師と、どれだけ心地よい関係を築けるかによって、その後の人間関

係が形成される。保険はおそらく3つか4つの選択肢から選ぶことができる。また、患者は、紹介を受けたり、ウェブサイトを見たり、フォーラムなどを读んだりしてクリニックを選ぶ。

「Concebir」（「妊娠する」という意味）と呼ばれる患者の大きな組織があり、不妊や治療に関する様々なトピックについて、毎月ミーティングや説明会を開催している。患者にとって情報は重要で、今では多くの情報源がある。

Q. 精子や卵子の提供はどのように行われていますか？匿名ですか？将来、子どもたちが提供者を知ることは可能ですか？

アルゼンチンでは配偶子提供が認められており、民法に明記されている。ドナーは“Donor”と呼ばれ、独自の権利と責任がある。代理出産は民法に明記されていないが、法律で明確に禁止されていないものは許可されるということがアルゼンチン憲法で定められている。

依頼親からみてドナーは匿名であるため、親はドナーの名前を知ることはできないが、18歳なった子供は、ドナーの身元を知る権利があると法律で定められている。これは2015年に施行され、遡及されないため、2033年には最初の cohorts が希望すれば情報にアクセスできるようになる。この制度により、子どもは裁判所に対し、ドナーの姓名を公開するよう要求することができる。ただし、ドナーは、子供が連絡を取ったとしても、連絡を返す義務はない。

依頼親が安心できるよう、より多くの情報を提供している。依頼親には、ドナーの子供の頃の写真、性格の特徴、願望、キャリア、将来への希望などが書かれたフォルダを渡す。これは家族にとっ



でも子供にとってもありがたいことで、ドナーの匿名性を保ちながら、どのようにして自分が生まれたのかという子供の質問に、よりの確に答えることができる。

商業的な DNA 検査は、アルゼンチンではアメリカやイギリスほど普及していない。現時点ではかなり高価だが、将来もっと普及すると考えている。市販の DNA 検査が主流になれば、ドナーの匿名性は不可能になるかもしれない。

Q. 体外受精や生殖補助医療を規制する法律やガイドラインがありますか？ また、現在政府で議論されているものはありますか？

ヨーロッパの ESHRE のガイドラインと ASRM のガイドラインに常に従っている。アルゼンチンのクリニックはこの 2 つの大きな科学グループに従っている。また、スペイン不妊学会にも注意を払っている。これは地域の規制の代わりとして機能している。

Q. 海外からくる患者はいますか？ 彼らはどのようなサービスを求めているのでしょうか？

海外からの患者は、卵子提供に最も興味を持っている。特にパンデミックの後、多くのクリニックで卵子が不足した。パンデミックの規制はアルゼンチンでは 8 ヶ月と長引いたので、ドナーは何ヶ月も提供できず、クリニックは患者のニーズをサポートするためにバンクからの凍結卵子を使用しなければならなかった。現在では、パンデミック前に比べて提供する人が減っているため、卵子の入手可能性はまだ低い。

海外からの患者は、ウルグアイ、チリ、パラグアイ、ペルーといった近隣諸

国から来ることが多い。アルゼンチン・ペソは非常に弱いので、近隣諸国の患者にとっては、経済的に有利になる。もう一つの理由は、アルゼンチンの治療、技術、知識の質が非常に高く、成功率も高いこと。アルゼンチンのクリニックは、高いレベルの専門知識を持つプロフェッショナルとして、南米地域では知られている。

第三の理由は、アルゼンチンで入手できる精子と卵子の民族的特徴。第一次世界大戦後と第二次世界大戦後、スペイン、イタリア、ロシアからアルゼンチンへの移民の波があった。つまり、ドナー集団の民族的特徴は、その結果、非常に幅広くて患者にとって魅力的なものとなっている。

Q. アジア諸国からの患者を受け入れていますが？

アジアからの患者をあまり見たことがない。というのも、ほとんどのアジア人患者はアジア人のドナーを求めているから。少なくともブエノスアイレスでは、アジア人コミュニティは頻繁にドナーになるわけではないので、クリニックにアジア系民族の精子や卵子が十分に蓄えられているわけではない。

Q. 国際的な政治情勢は、アルゼンチンへの渡航治療の需要に影響を与えていますか？

卵子提供のためにウクライナに行くはずだった患者の数が増えている。彼らは紛争の結果アルゼンチンに移住してきたか、あるいは特に卵子を求めてやってきた。ロシア人の患者も増えているが、これはロシアのパスポート保持者が比較的容易にアルゼンチンに入国できるから。



Q. 人権団体は不妊治療に批判的ですか？体外受精やそれに関連する技術に対して、教会や宗教団体はどのように考えていますか？

アルゼンチンはとてもオープンな社会。もちろん、教会はART治療に関して常に反対意見を抱えているが、クリニックにとってそれは何ら問題ではない。

Q. 不妊治療医の団体は権限やパワーがありますか。

過去20年間、アルゼンチン政府は不妊治療を許可し、可能にすることに非常に寛容だった。このため、アルゼンチンは技術的進歩や専門的技術の面で、南米地域で最も進んだ国の一つとなっている。

アルゼンチンでは1970年代に軍部主導の政権が誕生し、ほとんど内戦状態だったという残酷な歴史がある。この時期、多くの人々が姿を消し、殺された。その結果、人権を意識し、知る権利を維持しようとする傾向があり、透明性のあるオープン・アイデンティティ・プログラムが重要視され、政治家もそれを理解している。2015年以降に生まれた子どもたちが、18歳になった時点でドナーの名前を知ることができるようになったのは、こうした背景もある。

Q. 不妊治療が終わった後に残った胚はどうなるのですか？

残念ながら、これについての規制はない。この話題は国会でも取り上げられたが、何も決まっていない。夫婦が決めたくないので、残された胚は永遠に保管されることもある。もちろん、誰かが維持費を支払わなければならない。

胚を他のカップルに提供することを選ぶ患者はほとんどいない。ほとんどの親はすでに家庭を築いており、提供した胚が他の誰かの子どもになる可能性があることを理解している。にもかかわらず、彼らはまだ胚を（少なくとも潜在的には）自分の子供であるかのように、つながりを感じている。

Q. 現在、アルゼンチンはどのような経済情勢でしょうか。

経済状況は非常に厳しい。自分たちのような「生き残り」(survivors)は、急速に上昇するインフレに対処しなければならぬため、毎月クリニックでの見積価格を変更しなければならない。常に価格を改定しているとミスが多くなり、事務的にも患者さんにも混乱を生じる。患者にとっては、治療費がいくらになるのか正確にはわからないということが、治療による侵襲に加えてストレスとなっている。

また、必要な道具や基本的な設備をアルゼンチン国外から調達することにも問題があり、これが治療の継続性に支障をきたし、提供できる治療の質にも影響を及ぼしている。

急激なインフレの結果、アルゼンチン人の患者数、特に健康保険に加入していない、貧しい層の患者の数が減少している。この危機はずっと続いている。不妊治療を受けるところか、毎月の生活を支えるだけのお金もない人がたくさんいる。子供を持つことを考え直さなければならぬかもしれない。

経済的に安定している人は、まず健康保険を利用する。何がカバーされ、何がカバーされないかを決定するために、交



渉を行う必要がある。これは価格の変動によるもの。

Q. アルゼンチンでは代理出産は行われていますか？ どのように？

代理出産は特に禁止されているわけではないので、デフォルトでは許可されていると考えられる。代理出産を希望する依頼者と代理母との間に合意があれば、代理出産を容易に行うことができ、そのようなサービスを提供しているクリニックもある。ブエノスアイレスに限っては、子供は自動的に依頼者の子供として出生証明書に記載されるという法律がある。もちろんそのための書類が必要になるが。

代理出産を行うグループには、医師、産科医、生物学者、心理学者、法律専門家などの専門家チームが参加し、多くの要素が考慮される。依頼者と代理母は、多くの書類や同意書などに署名しなければならない。これは、アメリカのガイドラインを参考にしているのではないかと推測している。代理出産について、アルゼンチンの生殖医学会のガイドラインもある。

代理出産は、アルゼンチン社会では秘密ではない。確かに、他の治療法よりも論争が多いかもしれないが。アルゼンチン生殖医学会や心理学会によって書かれた代理出産についての書籍もある。

(2023年11月)

Dr. Vanesa Rawe [Link](#)

1994年、ブエノスアイレス大学卒業。生物医学の専門課程を修了し、生殖医学専門医、生殖婦人科・内分泌学専門医の称号を得る。グレーターボルチモアメディカルセンターで修士号、ブエノスアイレス大学で博士号を取得。専門分野は生殖生物学。現在はブエノスアイレスの REPROTEC のディレクターであり、マイモニデス大学に所属する研究者でもある。

論文

Vanesa Y. Rawe, Heide Schatten, Qing-Yuan Sun 2011 The sperm centrosome: its role and significance in nature and human assisted reproduction. *Journal of Reproductive Biotechnology and Fertility* 2(2): pp.121-127

Vanesa Y. Rawe, Cristian Alvarez Sedó, Héctor E. Chemes. 2012 Acrosomal biogenesis in human globozoospermia: immunocytochemical, ultrastructural and proteomic studies. *Human Reproduction* 27(7): pp.1912-1921.

Heather Shadow, Vanesa Y. Rawe, Qing-Yuan Sun 2012 Cytoskeletal Architecture of Human Oocytes with Focus on Centrosomes and Their Significant Role in Fertilization. *Practical Manual of In Vitro Fertilization*. pp.667-676.